▣愛のつはもの

帝キネ芦屋現代映畫

原作者　綠川露之助氏
脚色並監督者　龜井清一氏
撮影者　岡本靜夫氏

――主要役割――

鍛治屋儀平　吉田豐作氏
妻お作　園千枝子孃
先妻の子陽太郎　齋藤紫香氏
その弟陽次　櫻井浩氏
お新　笹置倭文子孃
英造　瀨川銀潮氏
少女お照　霧島直子孃

解說――「戀の虚像」について龜井清一氏が監督製作した現代劇である。

略筋――村の鍛治屋儀平は二人の息子を相手に日々仕事に余念がなかつた。弟の陽次は至つて親切な青年で哀れな漂泊の少女お照を我家へ引取つて眞面目に働いてゐたが先妻の子陽太郎は町の酌婦に溺れて仕事も疎じ勝ちであつた。後妻お作の誠心も陽太郎には通ぜず酌婦お新の爲め人を傷け五百圓の醫療費を强請されたが勿論そんな大金は無く、それを見たお照は自分の身を犧牲にしてその金を支拂つたがそれが謀られて居たのだと云ふ事を知つた時陽太郎は飜然改悟し遂に惡人共を懲しその金を取り戻しお照を救ひ出し儀平一家には始めて平和な日が續くやうになつた。